

やるせない&やる気ない

これが立ち食いそばの世界だ！

男は誰しも偉業に憧れる――。

そんな心意気で立ち食いそばのメニュー全制覇に挑んだのが

『アサツテ君』や『丸かじり』シリーズでおなじみの東海林さだおさんだ。

東海林さんから見た、立ち食いそばワールドについて聞いた。

漫画家・エッセイスト

東海林さだお

●しょうじ・さだお 1937年東京都生まれ。数々の漫画賞、文学賞を受賞し、2000年には紫綬褒章も受賞。近著に『オッパイ入門』（文藝春秋）がある。

「富士そば」全メニュー制覇!?

――『偉いぞ！ 立ち食いそば』

（文藝春秋）では、立ち食いそばのチェーン店・富士そばの全メニュー制覇に挑んでおられます。あのときに、この仕事場の近くですか？

西荻窪駅の南口の真ん前。いまだ

もありません。普段からよく行っている店です。

――あの企画は、編集者の提案だったのでしょうか。

いやいや、自分で面白そうだなあと思って。立ち食いそばは、ずいぶん昔から食べてるし。でもあれ、メニューの半分くらいまでいったところで、店内を改装してイスを置くようになっちゃったんですよ。立ち食い

そばじゃなくなっちゃったんで、「もう、いっか」と思って途中でやめちゃいました。（笑）

いまはイスがあると女性客が増えるというので、ほとんどの立ち食いそばにイスがあるんじゃないですか？ 実際、最近は女性が多いですよ。やっぱり、女の人は、立って食べるのには抵抗があったんだと思います。

――お会いする前に、西荻窪駅構内のおそば屋さんに寄ってきたんですが、五人中三人は女性でした。

あそこはイスがあるし、明るいし。最近の立ち食いそば屋さんは、どんどんきれいになってますね。立ち食いだけのところは、男ばかりで、殺伐としていて、みんな息つく暇もなく食べて出ていく。えー、何だっけ、あそこの立ち食いそば屋……。

――東海林さんが行っていた富士そばのことですか？

そうそう。どうして忘れちゃったんだろ（笑）。あそこは、カツ丼があるんですよ。四百九十円は、安いと思う。でもカツ丼は、立って食べるのには、合わないんです。丼を持って噛んでるだけの時間、あれがどうもね。ほかは息つく暇もないのに、カツ丼はモグモグしてるだけの時間が長くて、間が持たないし、カッコ

がつかない。立ち食いそばは、やっぱり早く食べて、早く出るところだから。

近場でいうと、中野駅の北口のところにあるそば屋は、いまだに立ち食い。そこは有名ですよ。名前、何ていったかな？ 西荻窪から行くと進行方向左、広場の真ん中あたりに見えます。あれが、けっこう古くて、味もおいしい。

天ぷら系がおいしい！

――全メニュー制覇の第一歩は、かけそばからでした。

そば屋でかけを食べる人って、まづいないんです。ですから、注文するときは相当な決意がいります。冒険です。もしそばなら通だと思われても、かけそばはそうはならない。「これは、貧^{ヒシ}だな」（笑）。そうは見

られたくないよね。油揚げの一枚でも入ってれば言い訳が立つけど、かけそば食べてるとこを見られたら言い訳が立たない。「苦しいんだな」ってなるでしょう。

――東海林さんが頼んだときは、おばちゃんがいっぱいワカメを乗せてくれたそうですね。

不憫に思ってくれたみたいですよ。昔はネギやワカメを自分で乗せられる店があったけど、いまは完全に店の人が乗せてますね。大量に取って、山盛りにしたりする人がいるから。ラーメン屋とかでも、ニンニクの入れ物があると、やたらに取る人いるよね。

――ラーメンを立ち食いしたのは、富士そばが初めてだったとか。

けっこうおいしいんですよ、富士そばのラーメン。富士そばのラーメンとカツ丼はおいしいっていうのは、